

6・3 貨物の安全な積み付けおよび運送

6・3・1 危険物の運送

国際航海における危険品の海上輸送は、固体ばら積み貨物については国際海上固体ばら積み貨物規則(IMSBCコード)、個品危険物(コンテナ)については国際海上危険物規程(IMDGコード)、液体ばら積み貨物については危険化学品のばら積運送のための船舶の構造および設備に関する国際規則(IBCコード)に詳細な要件が規定されており、国際海事機関(IMO)貨物運送小委員会(CCC)と汚染防止・対応小委員会(PPR)において、定期的な見直しが行われている。

1. IMDGコード(国際海上危険物規定)改正

同コードは、危険物運送の実態等に対応して2年毎に改正が行われており、第41回改正は、2024年6月1日に発効されるが、今般の改正と内容が一部重複する航空における危険物輸送に関する国際規則の改正が2023年1月1日に発効される為、輸送モード間で円滑な貨物の取次ぎを行うことができるように、IMDGコードの第41回改正内容を2023年1月1日から取り入れることをIMOが推奨している。このため、国内法の改正が2023年1月1日から施行される。

危告示の一部改正について

- ・ 自己反応物質及び有機酸化物に該当する4種類の化学物質の収納方法に関する要件
- ・ UN1169とUN1197を統合し、UN1197抽出香料液(精油又は着香料)と改正
- ・ UN1891の危険性の分類を、等級6.1(毒物)から等級3(引火性液体類)及び副次危険性等級6.1に改正し、運送時の軽減措置適用となる許容容量・質量を改正
- ・ 「水酸化コバルト(Ⅱ)粉末 呼吸域粒子10%以上を含むもの」を新規に規定
- ・ 隔離要件について、「酸類(SGG1)」と「強酸類(SGG1a)」の区別をなくす
- ・ 船舶の航行等に使用される常用危険物として「アンモニア等の液化ガスの機関用燃料」を新規に規定

等がある。

2. IMSBCコード(国際海上固体ばら積み貨物規則)改正

IMSBCコードは、穀類を除く全ての固体ばら積み貨物を対象に、2011年1月1日に強制化された。荷送人は船長に対し貨物の詳細な情報を提出し、船長は、物質ごとに定められた要件に従って運送する義務を負う。貨物種別としては、3種類に分類される。

種別 A : 液状化のおそれのある物質 (例:ニッケル精鉱)

*) 運送中に液状化した場合の危険性が特に高い為、特段の措置を要求

種別 B : 科学的危険性を有する物質 (例:石炭)

種別 C : AまたはB以外の物質 (例:鉄鉱石)

同コードに掲載されたもの、及び、荷積み国主管庁の承認を受けたもののみが船舶にばら積みして輸送できることとなっている。

このことから、コード未採用の貨物の詳細要件については各国からIMO提案が提出され、貨

物運送小委員会(CCC)において審議、海上安全委員会(MSC)において採択されている。IMDG コードと同様、2年毎に改正が行われており、第6次改正による最新のコードが2023年12月1日に発効した。

第7次改正が2022年にCCC8で審議され、2023年に開催されたMSC107で採択され、2025年1月1日に発効することとなった。国土交通省には、前回と同じく、1年前倒しの早期運用に関する要望書を提出済み。

6・3・2 ISO/TC104(貨物コンテナ)に関する対応

1. ISO/TC104(貨物コンテナ)の概要

国際標準化機構(ISO)の中で104番目に設置された専門委員会(TC)であるTC104は19カ国の正式加盟国(Pメンバー:業務に積極的に参画し、規格投票に対する債務および可能な限り会議に参加するメンバー)および31カ国のオブザーバー加盟国(Oメンバー:オブザーバーとして業務に参画するメンバーであり、意見提出、会議出席の権利を有する)にて構成され、貨物コンテナ、特に海上コンテナに関する標準化について審議している。傘下に3つの小委員会(SC)および11のワーキンググループ(WG)が置かれている。

当協会は、日本工業標準調査会(JISC:Japanese Industrial Standards Committee)の承認の下、TC104の国内審議委員会「ISOコンテナ委員会」の事務局を務めている。

ISO/TC104“貨物コンテナ”	(ANSI(米国規格協会))
SC1“一般コンテナ”	(AFNOR(フランス規格協会))
WG1“一般貨物コンテナ”	(AFNOR)
WG2“取扱いおよび固縛”	(AFNOR)
SC2“特殊コンテナ”	(BSI(英国規格協会))
WG1“冷凍コンテナ”	(BSI)
WG4“タンクコンテナ”	(BSI)
WG7“ドライバルク貨物コンテナ”	(BSI)
SC4“識別および通信”	(AFNOR)
WG1“コード、識別および表示方法”	(AFNOR)
WG2“コンテナおよび付属品に関するAEI”	(AFNOR)
WG3“通信および用語”	(AFNOR)
AHG1“TC104再活性化”	(ANSI)〈2022年新設〉
CAG“委員長諮問委員会”	(ANSI)
WG9“ISO830(用語)改訂”	(ANSI)〈2022年新設〉

()内は事務局

2. ISO/TC104の活動状況

ISO/TC104年次総会は2022年10月にオンライン開催され、TC104の下に委員会活動の再活性化策を検討するAHG(Ad-hoc Group)1、および、ISO830改訂について検討を行う

WG9 の設置が決定された。両 WG の専門家には、日本 (ISO コンテナ委員会) より城西国際大学大学院石井教授が就任した。

2022 年 4 月から 2023 年 3 月に以下 1 件の最終国際規格案 (FDIS)、2 件の作業原案 (WorkingDraft) を承認するなどの活動を実施した。

- | | |
|---------------------------------|---|
| SC1 NF ISO 1161 (Working Draft) | Series 1 freight containers – Corner and intermediate fittings – Specification |
| SC2 ISO/DIS 1496-4 (Ed 2) | Series 1 freight containers – Specification and testing – Part 4: Non-pressurized containers for dry bulk |
| SC4 ISO/DTS7352 (Working Draft) | Freight containers – NFC or/and QR code seals |